学校番号	3018

令和２年度　**芸術**　科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	（　1　）単位	年次	（　2　）年次
使用教科書	東京書籍「書道Ⅱ」						
副教材等	ペン習字教範						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰを基礎としながら多様な古典・名筆を臨書することで、表現の幅を広げよう。
・様々な作品に触れ、鑑賞力を伸ばそう。
・作品制作により、表現を構想し、工夫する力を伸ばそう。
・書の伝統・文化への理解を深め、生涯にわたって書を鑑賞、愛好する心を育てよう。

2　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	用具用材を工夫して書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	古典・名筆への理解に基づく表現を工夫する。感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、作品制作へと結びつける。	創造的な書表現をするために、書体や書風に即した用筆法を理解工夫し、効果的な表現の技能を身に付け表している。	書の歴史・伝統・文化について深く理解し、その価値を考え、書の美しさについて感受を高める。またその現代的意義について理解する。
評価方法	観察 副教材 作品集 展示作品	観察 作品集 展示作品	観察 作品集 展示作品	観察 作品集 展示作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間	漢字の書 (楷書) (行書) (硬筆) 篆刻	・美人墓誌銘臨書 ・張猛龍碑臨書 ・集王聖教序臨書 ・篆刻 ・硬筆	○		○		a:古典の用筆や運筆、時代背景や表現の違いについて関心を持ち理解した上で、意欲的に表現活動に生かす。 b:古典名筆の美、篆刻における篆書の美を理解して、それに基づく個性的な表現を工夫している。 c:創造的な書表現をするために、全体構成を工夫し感興や意図に応じた表現技能を身に付けて表している。 d:様々な古典を知り、その良さを味わう。硬筆の効用と良さを味わう。	観察 副教材 作品集
前期期末	漢字の書 (五体) 漢字仮名交じりの書 仮名散らし書き	・条幅作品制作 ・漢字仮名交じりの創作作品を制作 ・仮名散らし書き	○	○		○	a:漢字五体の特徴とその良さに関心を持ち、意欲的に用筆法を習得して作品に生かせるよう取り組む。 b:表現形式に応じて構想を練り、作品制作における表現を工夫している。 c:作品制作にも生かせるよう、効果的な用筆法を身に付けている。また多様な教材紙を使いわけることができる。 d:教科書の参考作品や互いの作品など、様々な作品を鑑賞し、その美しさを味わい感受を深める。書の歴史と文化を知り現代的意義を理解する。	観察 作品集 展示作品

※　表中の観点について　　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。